

70

# 会報



THE ROTARY CLUB  
OF TSURUOKA

## 鶴岡ロータリー

第 562 号

1970.7.21 (火)

例会場 鶴岡市本町二丁目 ひさごや

事務所 鶴岡市馬場町 商工会議所内 ☎ 5775

### 四つのテスト

—言行はこれに照してから—

1. 真実か、どうか  
is it the truth?
2. みんなに公平か  
is it fair to all concerned?
3. 好意と友情を深めるか  
will it build goodwill and better friendships?
4. みんなのためになるかどうか  
will it be beneficial to all concerned?

### 「隔りを取り除こう。」

帯谷茂雄君—鶴岡西RC

半田茂弥君—鶴岡西RC

#### 出席報告

本日の出席 会員数 65名  
出席数 45名  
出席率 69.80%

欠席者 荒明君、安藤君、長谷川(悦)君  
平田(圭)君、平田(貢)君、池内君、海東君、小花君、今間君  
金野君、嶺岸君、三浦君、中山君、齋藤(栄)君、齋藤(信)君  
鈴木(善)君、手塚林蔵君、津田君、辻君、富樫君

前回の出席 前回出席率 69.23%  
修正出席数 53名  
確定出席率 81.54%

メークアップ 三井(徹)君、一京都RC  
阿部(公)君—村山RC  
五十嵐(一)君—酒田東RC  
石黒君—温海RC  
池内君、上林君、黒谷君、鈴木(弥)君—鶴岡西RC

ビジター 齋藤一郎君—酒田RC

#### 会長報告 小池繁治君

クラブ協議会を7月24日(金)午後5時から7時まで山王閣ホテルで開催します。各委員長は必ず出席して下さい。本年度の活動計画書を検討します。委員長の都合がつかない時は委員長の代理を出して下さい。それに引続いて、1966年から67年にかけて交換学生として鶴岡に来ていたアイリン嬢と御両親が来鶴していますのでその歓迎会を山王閣で開催します。協議会に出席出来ない方もなるべく御家族と一緒に出席して下さい。

(会費 1,500円)

温海ロータリー・クラブの認証状伝達式は11月15日決りました。日程の細部は未定です。

交換学生、石黒敏明君から便りがあり、ロスアンゼルスで元気に勉強しているとのことです。

会報はご家族みんなで読みましょう

決算内容については別紙の通りで、備考欄を御参照下さい。本会計の繰越金は当座、スマイルボックス、10周年特別会計、交換学生会計は何づれも普通預金、クラブ基金は定期預金にしてあり、7月17日新会計担当者に引き継ぎしました。関係調票類は事務局に保管してあります。よろしく御審議下さい(全員異議なく承認)

### ゲスト・スピーチ

#### 「作物の性と稔実について」

山形大学農学部教授 青葉<sup>たかし</sup>高君  
(そ菜園芸学専攻・農学博士)

私は、山大農学部でそ菜園芸、平たくいえば野菜や花をやっておりますが3年前、園芸学科が新設されます際には、地元の方々からも学後援頂きお礼を申し上げます。こちらに参りまして22~3年になりますが、参りましてだいたい珍しいものがあり、研究テーマの一部にさせて頂いています。このたびおすゝめがありましたので珍しくもありませんが少々お話し申し上げます。いま頂きました民田ナスなども珍しいものですが、この地方の人にはちっとも珍しくないかも知れません。宇宙から地球に来れば空気は珍しいかも知れないが、我々には空気などないにも等しい訳です。かなり前、地方新聞でみょうがが実をつけた、花をつけたということで記事になったことがあります。そんなことを思い出したので、二、三関係のあることを申してみたいと思います。

性ということは、植物としてはなんということもなく受けとっていたのですが、最近人間の性ということをジャーナリズムが取りあげるようになり、テレビのスイッチを入るとすぐ「よろめきドラマ」が出てくることになり、私も子供と一緒にテレビを見たくな

い気になります。性ということは私も種をとる時に問題にもなるし、学問的にもとりあげている訳です。この題目を考えました一つの動機は、20日位前から愛媛大学の方から全国の「すいば」を集めているので、東北の方からも送って欲しいという話がありました。

「すいば」というのは「すかんぼ」のことで、そう珍しいものではありませんが、これは雌株と雄株が違っており、さがしてみますと雌株ばかりで雄株は見つかりません。

植物の性は雌雄異種のもので染色体によって決まっているのがあります。そうでなく、きゅうりや、かぼちゃのように雌花と雄花があるものもあり、それを交える研究をやっています。横道にそれますが、庄内柿のように、最初花が出来た時は雄でも雌でもなく発育する段階で、あるものは雌の器官が発達して柿の実のなる雌花になるわけです。また、菊や百合のように1つの花で雌雄の器官がそなわっているものも沢山あります。生物も段々下等になると雌雄のはっきりしないものがありますが、銀杏のようになりに高等でも雌雄が別株のものもあります。雄株からは花粉が出ますが、自分で活動する能力を持つ精子が出来ることが明治29年に平瀬作五郎さんという日本人によってみつけれられています。同じ年に池田成一郎という学者が蘇鉄でもそういうことがあることをみつけ出しています。こういう特殊の例もありますが、普通の高等植物は花粉によって胚珠に種を作る形をとっています。

丁度、ほうれん草の花がありましたので持って来ましたが、これは雄株の花と、雌株の花が別々に咲いております。ほうれん草は雄株の方が早く花が出ます。春のほうれん草作りではなるべく雌株の方が沢山出してくれればいいのですが、そうはいかず大体1:1に出てくるので、そこまではいかないけれどもいいのこのこというものが品種によって沢山ありま

す。あいのこは割合雌に似ているので本当の雄が少いような品種が春作られるというようになっています。これは性染色体が関係しているすいばの仲間なので、葉では転換出来ないが、あいのこを作るような品種が選ばれている訳です。アスパラガスでは実のつく株とつかない株がありますが、野菜を作る立場では雌株の方が出る茎の本数が少ないけれども大きいのが出来ますし、雄の方は沢山茎が出ますが細いものになりますので雌株の方が望ましい訳です。ところが花が出るまでに何年かかゝり、それから苗を植えたのはかなわないので実際には区別をしないで植えています。学問的には薬品を使って雌雄の区別をすることが実験的にある程度確かめられてをります。この辺のすいばの様に雌株ばかりで雄株がみつからない作物もなくはありません。

砂丘の長芋を先日、全国の砂丘研究会の方に見てもらいましたが長芋の花も雄花しかみつかりません。雌株だけを作っている訳です。自然薯には雄花、雌花もあります。3枚羽根を合せたような種がついて、こぼれると新しい実生も出てくるのではないかと思います。作り芋の中のをやまと芋は最近山形でも少し作って関西に出荷していますが、この品種には、雌花もつくし、雄花も少しつきます。この品種には種が出来ます。私共がいたずら半分この種を蒔いてみますと、なかなか生えませんがたまに生えたものを大事に育ててみると親の芋とはちがった形のものが出来てきます専門誌に簡単に発表したこともありますが、種で繁殖しますと変りものが出来ることがあり、花の方では、その変っているものを新しい品種にして増している訳です。長いもの場合は所謂むかごで繁殖していますので、変りものはめったに出てきません。種からやれば良い品種が得られるかとも思ってや

ってみた次第です。生物はうまく出来ているものでむかごでふえるようなものはなかなか種をつけない、また種をつける能力の強いものは、栄養繁殖をしません。

普通栄養繁殖をしているものの実生を作ること心掛けていましたが、先程申し上げたみようがが花をつけたことをききました。丁度原爆実験の盛んな時期でありましたので、その影響が新聞で話題になっている頃に農家の人がみつめてきたのです。1つ2つはこれまで見たことはありましたが、まとまって見たことはないの、その時スライドを撮りましたので御覧下さい。赤くきれいなのは、花ではなく実でありまして、あやめのように3つにさけ、中に白い衣をきて黒い種子が入っています。みようがは庄内地方も本場で黄金や谷定の方でも作られていますし、私共も一役買って群馬の方にしんしん漬のお世話をしたことがあります、種子は出来ないものだと思っていました。みようがの花は御承知のように黄色い花卉が出てきて、中にかなり大きい花粉が出て数も多く出来るのに種が出来ない疑問がありました。花粉の発芽能力を調べてみると非常に高い、これは培養基で調べるのですが能力がありながら、種子が出来ないのです。この訳は私は未だ充分説明出来ませんがこの様な植物は結構沢山あります。

動物の場合も、昔からの言い伝へて人は何万年も前から近親結婚をしないことになっています。古い書物にもこれは禁じられていますし今の法律でもこれを規制しています。植物の間でも近親間での交配を防ぐような手当がかなりされてをります。例えば、ネギ、人參は雄しべの方が成熟してから、4、5日たたないと雌しべが成熟しない。雌しべが成熟した頃には雄しべはしぼんでしまう、だから同じ花では種をつけられないのです。菜種、キャベツ、白菜の種は交配種ですが、自分の

株の花粉では交配出来ない品種がかなり沢山あります。これを利用して、自家不和合性のあるものを並べて植えますと、昆虫が甲から乙に花粉をつけ、乙の花粉を甲につけるということで、安上りな一代雑種の種子が売られている訳です。ペチニアなどもそうですが、果物なども授粉樹といいますが、違った品種を植えておかないと、リンゴ、桜桃なども実がつかない、1本だけ苗木を植えても一寸も実がつかないことになります。みょうがの場合もこのような性質があるのかも知れません。私も本格的に研究していませんのでなんとも云えません。まさか原爆実験の為とは思いませんが、みょうがに、たまたま実が出来たのは何が原因なのかは判りませんが、これが判って種子がとれるようになりますと、新しい品種改良が出来る手だてが得られる可能性もなくなると思います。

私共ではこの他、温海かぶとかおかひじきなどをみせて頂き、この間から産業に役に立つような例えば、酒田きゅうりから新しい品種を作り日本のピクル漬けが初めて出来た様に実験が役に立っている訳です。何か珍しいものがありましたら御教示下さい。

## 幹事報告

### ○会報到着

東京RC、石巻東RC、福岡RC、  
郡山RC、天童RC

### ○チャーター・ナイトの案内

茨城県、潮来RC 10月11日(日)

於 潮来高校体育

登録料 4,000円

### ○例会時間変更

東京、日本橋RC

AM8.30~9.30 (但し8月中だけ)

### ○373区 年次大会

11月7日(土) 11月8日(日)

於 熊本市市民会館